



桂昌院 篇

文化財保護の先駆け、桂昌院

桂昌院けいしょういんは、京都の八百屋 仁左衛門の娘に生まれ、名は、お玉、のちに本庄宗正の養女となったといわれています。

寛永 16（1639）年に江戸幕府3代将軍・徳川家光の側室 お万まんの方おかたに仕えました。この時に家光に見初められ、家光の側室となりました。正保3（1646）年に綱吉を産み、慶安4（1651）年に家光が亡くなると、大奥を離れ、桂昌院と称しました。

延宝8（1680）年に綱吉が將軍職（5代）に就くと、桂昌院は江戸城三の丸へ入り、政治にも大きく関わるようになりました。また、桂昌院は、綱吉とともに仏教を篤く信仰するようになりました。

このような背景のもと、幕府は、諸寺の修理・復興に多額の寄付を行いました。そのひとつに室生寺があります。奈良県内では、東大寺、春日大社、法隆寺、唐招提寺、新薬師寺、信貴山朝護孫子寺、東明寺、長谷寺にも多額の寄付が行われ、建物等の修理が行われました。桂昌院の尽力で各地の社寺の修理・復興が行われ、今に伝えられています。もし、幕府からの寄付がなかったら、国宝や重要文化財に指定されている建物や仏像などは、私たちは見ることができなかつたかもしれません。

桂昌院の墓は、東京の増上寺をはじめ、京都のいくつかの寺院にあります。室生寺境内（本堂東隣）にも大きな五輪塔の桂昌院のお墓があります。

